

光受寺通信

NO.172

発行元 光受寺



五月

お寺サロン開かれる。 光受寺

私は最近になって、家庭菜園らしきものに取り組んでいます。昨年はご門徒さんから苗をいただき、プランターなども使って育ててみました。トウモロコシや枝豆、かぼちやに人參など、全くの素人で育てられる自信はほとんどなかったのですが、意外にも多くの収穫を得ることができました。

特にトウモロコシにおいては、穂が出て、実がつくかどうかとても心配でしたが、穂が出て実がなり、大きく生長していく様子を見ると、毎日がとても楽しみでした。やがて収穫し、いただいた時には一人感動し、周りに言いふらしていましたが、みんなどこかシラケていました。

私は、わずか一年間の経験でしたが、土と接することにより貴重な体験をし、普段には感じることもなかった感覚を覚えました。自然の力というか、土の力というか、人智をはるかに超えた底力みたいなものを改めて実感し、まさに地球上すべての命を育む大地だと、頭が下がりました。

今年も同じように苗をいただいて作付けをいたしました。新たにナスにシシトウ、ピーマンなどにも挑戦し、その成長を楽しみに、まるで友人のように話しかけるように一緒に育てています。

ある人曰く、「そんなもん、買った方が安くつくよ。」と云われます。確かに土代、肥料代、手間代計算したらそうかも知れませんが、「損か得か」の世の在り方では決して味い知ることのむねなく、よひむびがあるよひに思ひのむね。



境内の小さな山アジサイがそろそろ見ごろを迎えた十八日、お寺サロンが開かれました。

今回は前回にいただいた「聞きたいことアンケート」に答える形で行われました。

間には皆さん熱心に発言されていました。

その他、お得度(とくど)とお剃刀(かみそり)について違いや、お文の最後に読まれる「あなかしこあなかしこ」の意味などについての説明がなされました。

次回は八月十五日(木)午後1時半より2時半まで 廣専寺にて

「カイロプラクティックで健康寿命を延ばそう」がテーマです。

多くの方にご参加いただきますように！

光受寺学習会 六月十七日(土)

午後2時より

『歎異抄』第4条

「一緒に楽しく学びましょう。」

今月の掲示板

人間のすることじゃないと
母は言う。
人間だからこそ
私は思う。

人間って何？

この地球上をわがもの顔で生きている人間という生き物。

私もこの地球に生まれ、人間として生きている。「人間のすることではない」と人はよく口にするが、はたして人間とはいったい何なのだろうか。万物の霊長と言われ、良い気になって生きてはいるが、地球や他の生物からすれば、ほんとうに厄介な存在なのではないだろうか。

地球を汚染、破壊し、戦争では同じ人間の命を奪い合う。理性や倫理は煩惱の前では一気に消し去られてしまふのだ。

煩惱に苦しみ続ける人間の哀れさ。

それさえ分からぬ人間の悲しさ。そんな私たちを見守り続け、人間としての生きる喜びを与えようとしてくださっている仏の願いに目覚め、人間として生まれてきたことの喜びをかみしめて生きて行く難しさを感じてしまふのである。

いんないと学んでいます。

光受寺学習会

五月十九日(土)

午後二時半～三時半

『歎異抄』第3条



くちなし

本文冒頭文

「善人(ぜんじん)なほ(お)もつて 往生(おうじょう)を(う)べ(い)は(わ)んや 悪人(あくじん)をや」

意識

「善人ですら往生を遂げるのです。まして悪人が往生をとげられないことがありまじょうか。」

じょう意味になります。

皆さんはこの一文を読まれて、どんな思いを抱かれるのでしょうか。

多くの方は、「悪人でも往生するじょうのなら、善人なら間違いなく往生するのではないか」と思われると思います。

しかし、その思いは「応もつともじょうと思えませんが、善行をたのんで往生をしようと思っている人は、驕慢(きょうまん)＝おりの心がはたらいなして信じ込ませるじょうの危うさが潜んでいるのだよ。」

しかし、煩惱を抱えている私どもは、どのような修行をしても、生死の迷いははなれることなどできないのです。阿弥陀如来はそんな凡夫である私たちを憐れんでくださって「悪人こそ」と強調されたのだと思われまます。

もちろん、自力をたのむことで、善人だと思ひ込んでいる人も、救われないわけではありませぬ。たゞそのような人であっても、わが身の善をたのむ自力の心を改めて、阿弥陀の本願をたのみ、おまかせするならば、眞実報土に往生させいただくことができます。

ですから、阿弥陀如来のご本願というものは、煩惱を捨てきれない、いわゆる悪人を救つて浄土に往生させようとするために立てられた慈悲の心の表われですから、他力にまかせきつて悪人こそ第一に救われる対象となるわけです。

それゆえ善人でも往生させただけから、仰せられたのだと思います。

※悪いじょうをしても救われるのだからと、悪いことを勧めているわけではありませぬ。この誤解を正されるために、書かれた書でもあるわけですよ。

アジサイの季節がやってきました。約 50 種が咲き誇る。

海峡



ブルーが美しい。

しかし、私たちがよく見かけるアジサイはまだこれから見ごろを迎えます。ほんじょうが、アジサイ系なのですが、珍しいアジサイも多くありますので、ぜひお越しください。

小次郎



淡い紫が美しい。

5月に入ってから、小さな山アジサイが咲き始め、中旬には見ごろとなり、下旬には早くもは見ごろを過ぎるという早さでした。

清澄沢



顎に赤い縁取りがあります。

黒姫山あじさい



淡い水色がとってもすがすがしく、珍しい色合い。(貴重)

藍姫



小さな花で盛りには濃い紫になる。育てにくく、挿し芽も難し。(貴重)